

風しん第5期予防接種説明書

1 風しんについて

風しんは、風しんウィルスによって引き起こされる急性の発疹性感染症です。

風しんウィルスの感染経路は、「飛沫感染」で、ヒトからヒトへ感染が伝播します。感染した場合、約2～3週間後に発熱や発疹、リンパ節の腫れなどの症状が現れます。

症状は不顕性感染から、重篤な合併症併発まで幅広く、特に成人で発症した場合、高熱や発疹が長く続いたり、関節痛を認めるなど、小児より重症化することがあります。また、脳炎や血小板減少性紫斑病を合併するなど、入院加療を要することもあるため、決して軽視はできない疾患です。

また、風しんに対する免疫が不十分な妊娠20週頃までの妊婦が風しんウィルスに感染すると、出生児が先天性風しん症候群（CRS）を発症する可能性があります。

2 麻しん風しん混合（MR）ワクチンについて

麻しんウィルスと風しんウィルスを弱毒化して作ったワクチンです。ワクチンの効果は高く、接種を受けた人の95%以上が免疫を獲得することができます。

3 ワクチンの副反応について

主な副反応は、発熱と発疹、局所症状（疼痛、腫脹、硬結、熱感等）です。稀にみられる副反応としては、アナフィラキシーという重いアレルギー反応、血小板減少性紫斑病、脳炎等があります。

4 予防接種を受けることができない人

- ①明らかに発熱（37.5℃以上）している人
- ②重い急性疾患にかかっている人
- ③予防接種の成分に対して、アナフィラキシー（接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応）を起こしたことがある人。
- ④その他、医師が不適当と判断した場合

5 予防接種を受けるに際し、医師との相談が必要な人

- ①心臓病、腎臓病、肝臓病、血液疾患などの基礎疾患がある人
- ②以前に受けた予防接種で、接種後2日以内に発熱がみられた人及び発疹、じんましんなどのアレルギーと思われる異常が見られた人
- ③今までに、けいれん（ひきつけ）を起こしたことがある人
- ④今までに、免疫状態の異常を指摘されたことがある人もしくは近親者に先天性免疫不全症の方がいる人
- ⑤この予防接種の成分に対して、アレルギーを起こすおそれがある人

6 予防接種を受けた後の注意事項

- ①予防接種を受けた後30分間は、急な副作用が起こることがあります。医師（医療機関）とすぐに連絡が取れるようにしておきましょう。
- ②予防接種後に高熱やけいれんなどの異常があった場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- ③入浴は差し支えありませんが、接種部位を強くこすらないようにしましょう。
- ④接種当日は、激しい運動や過度の飲酒は避けてください。
- ⑤このワクチンの接種後、違う種類のワクチンを接種する場合には、27日間以上の間隔をあける必要があります。

7 予防接種健康被害救済制度

定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障がいを残すなどの健康被害が生じた場合には、国の審査会にて審議します。審査会で、予防接種によるものと認定された場合は、予防接種法に基づく給付を受けることができます。